難波田城だより

2018 冬
78 号

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—　NEWS from NANBATAJO

編集・発行
富士見市立難波田城資料館
平成 30 年 12 月 1 日発行

祖父から聞いた明治 43 年の洪水

市民学芸員　野村　富雄

富士見市内は、野方（のがた）という高台(標高 20m 前後)の畑作中心の地帯と、里方という低地（標高 6m 前後）の水田稲作中心地帯とに分けられ、その中で人々は生活している。水田地帯の屋敷の高さは、水田より 1～1.5m ほど高くしているのが一般的だと思う。

明治以降でも雨量が多ければ、絶えず水害の心配があり、多い年では年に 2～3 回も稲が冠水することがあった。

市域での大きな水害は、市史の年表に記録されているだけでも明治年間で 6 回、大正年間が 4 回、昭和でも 11 回ある。その中でも被害の大きさの筆頭は明治 43 年(1910)の水害だと思う。

祖父(明治 8 年生まれ)からは折りにふれ大水害の話を聞かされた。明治 43 年の大洪水は 8 月 1 日から降り始めた長雨によるものだったという。8 月 10、11 日には暴風雨となり、荒川の川越北西部と富士見市の東大久保びん沼等の堤防が決壊。濁流は新河岸川を乗り越え迫ってくる。そして母屋の軒近くまで押し寄せる。ノコギリとカマと縄を持って、タナギ(天井裏)に上り、屋根のほぼ中央に内側より穴をあけ、屋根の外に出られるようにしたり、あかりとりにした。

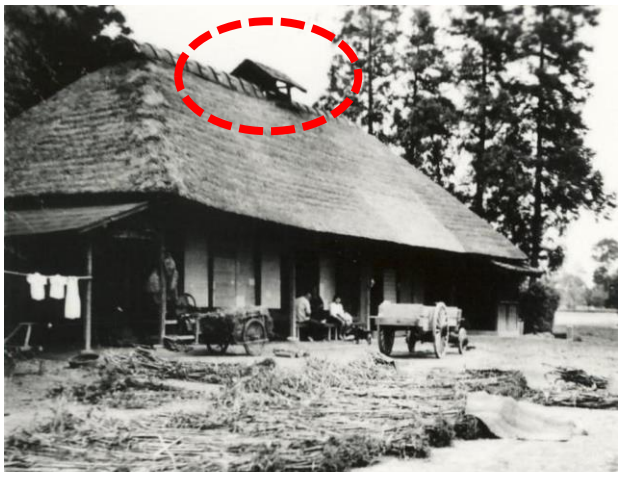
屋敷の周りは、欅（けやき）、樫（かし）、杉で囲われていた。新河岸川側は木の間をつなげた高久根（たかくね）(生垣の一種)になっていて、母屋、水塚の蔵などを濁流や流木の直接被害から守ってくれた。

水が去った後は、建物は無論、家の周りの土と、何から何まで水で洗い、臭いを落とすのが大変だった。片付けが終わるまでは 2 ヶ月以上土蔵の 2 階で寝泊まりをしていたが、壁に守られて中には水が入らなかった。

母屋にあけた穴は煙出（けむだし）にするために屋根をつけて雨風が入らぬようにした(写真参照)。

この水害の規模の大きさを物語るものに志木市立郷土資料館前にある洪水の最高水位を示す標識がある。この標識に刻まれた水位は 8.195m である。

荒川は源流を甲武信ヶ岳（こぶしがたけ）に持ち埼玉県の中央部を通り抜け東京湾に流れる水の大動脈である。現在、荒川の堤防は 15m の高さと強固な法面（のりめん）で築かれているので、50 年や 100 年に一度の水害にも耐えられると思う。しかし、洪水対策はこれで解決したという確証はない。



野村さんの生家。新河岸川のすぐ西にあった。

また、新河岸川には新河岸川放水路と南畑排水機場、その他の施設等があり、ほかに市内には蛇島調節池などもある。これらは横堤（よこてい）（本堤に対して横向きに造られた堤で遊水機能と流量調整機能を持つ）に似ており、それを進化させたものだともいえよう。先日ある会の席上で柳瀬川沿いにも調節池の整備計画が進められているという話を聞いた。

水害への対策は日々進んでいるが、私たち自身も市で発行している「洪水ハザードマップ」を脳裏に刻んでおき、各自がいつでも行動できるようにしておきたい。

市民学芸員のページ　＊このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城　ちょっと拝見　みどころ紹介

石造物シリーズ②『修堤紀功碑』

『紀功碑』とは、すぐれた成果、功績を紀した碑のことです。

かつて南畑村と宗岡村（現志木市）は水害の多い地域で、それを防ぐための堤の高さなどを巡り争いが絶えませんでした。この碑は両村の争いを調停し、和解に導いた二人の県会議員の功績を紀しています。

新河岸川は江戸への年貢及び物資運送の為に整備され、舟運で栄えました。しかし水害の多い川でもありました。南畑村、宗岡村も度々その水害に悩まされていました。

この碑には以下のことが記されています。

明治四十年の洪水で両村の家屋が浸水し、また争論が起きた。その争論を県会議員の綾部惣兵衛、荒井定次郎の二人が調停し、その結果、天明の頃からおよそ百二十年にわたるわだかまりが解けた。そして、堤の改修に至った。この功を紀すために南畑村の有志の発案により碑を立てることになった。

碑の銘には明治四十二年(１９０９)三月とあります。また、『修堤紀功碑』の字は犬養毅（のちに第29代首相）によるものです。

その後、新河岸川は荒川の直線化工事と合わせ大正十年(１９２１)から昭和五年(１９３０)にかけて改修工事が行われました。その結果、水害は減りましたが、舟運は終わりを告げました。（田中　聰行）

公園内の田んぼの脇に建っている石碑。当初、南畑村役場（現・JA 南畑支店）にあり、その後、難波田城公園に移設された。

おもしろ・なつかし体験⑥⓪

古民家で昔話

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

去る 10 月 20 日、「古民家で昔話」というイベントが旧大澤家住宅で行われました。旧大澤家住宅は江戸時代に名主をつとめていた大澤家の母屋として明治 4 年(1871)に建てられたものです。そのオクザシキとナカノマが会場となりました。

語り手は富士見市の図書館を中心に活動している「富士見市おはなしボランティアすぷんふる」のメンバー3 名の方です。昔の下南畑村の名主のお話『作べえさん』、ユーモラスなお経のお話『ねずみきょう』、思わずぞおっとする怖いお話『ゆきおなご』、三つの昔話を語って下さいました。

お話の合間には語り手の方がお手玉のいろいろな遊び方を披露してくれました。市の内外から集まったお子さんも大人も、参加者全員でお手玉で遊びました。

古民家のお座敷で障子越しの柔らかな日差しのなか、まるで昔話の世界に入り込んだようなひとときでした。　（安藤　昭子）

人の創ったもの★人の使ったもの

明治時代を伝える文字

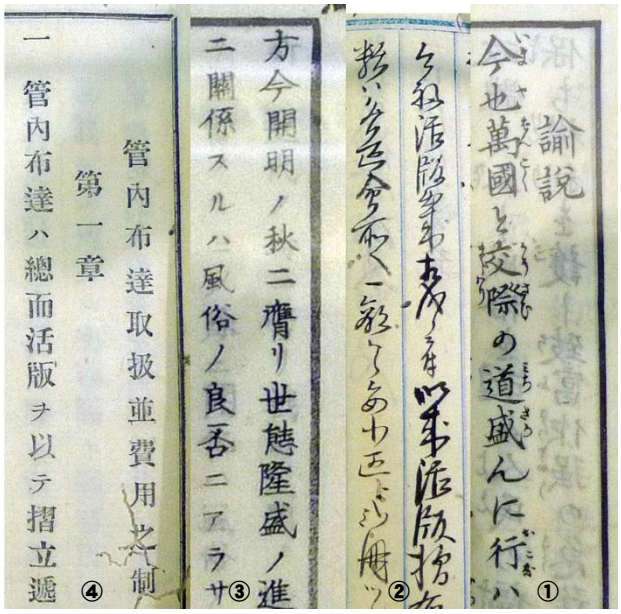
1 月 6 日まで特別展示室で開催中の企画展「村人たちの明治」の展示資料について解説します。

改革の時代を伝える横田家文書

今回の展示品の半ばを占めるのが、市指定文化財横田家文書です。

下鶴馬の横田家は、江戸時代から村名主をつとめ、また、明治初期には、8 ヶ村(鶴馬村、勝瀬村、水子村、針ヶ谷村、上南畑村、下南畑村、南畑新田[以上現富士見市]、駒林村[現ふじみ野市])を代表する戸長となり、県庁と村の間の文書の取り次ぎをしました。この結果、新政府や県庁から次々と発布された新制度の通知が数多く残されています。今回の展示ではそれらを「五箇条の御誓文」から抽出したキーワード「各其志ヲ遂ケシム(オノオノソノココロザシトゲ)」「旧来ノ陋習(ロウシュウ)ヲ破ル」「智識ヲ世界ニ求ム」「盛(サカン)ニ経綸(ケイリン)ヲ行フ」「万機公論ニ決スベシ」に分類して、それらに対する村側の対応とともに展示しました。

実物資料ならではの見所は、文字がどのように記されているかです。江戸時代以来のならわしでは、1 通の文書が多くの村を回覧し、村名主は手元に書き写しました。しかし、膨大な通知にその方法は困難でした。政府、そして県庁は、まず木版、次に活版(活字)印刷に切り替えていきました。



① 木版刷りの布告(明治 5 年 9 月、入間県より)
② 活版が導入された通知の書写(同 6 年 2 月、入間県より)
③ 木製活字で印刷された布告(同年 2 月、入間県より)
④ 金属活字で印刷された布告(同年 10 月、熊谷県より)

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

大水害を伝える柱

右の写真は、当館の開館以来、もっとも**高い**展示品です(高さ 352cm)。

瑠璃光寺(諏訪一丁目)の長屋門にあった柱で、昭和 55 年(1980)に考古館(資料館の前身)に寄贈されました。その後“所在不明”と扱われていましたが、今回の展示のために捜索したところ、収蔵庫で見つかりました。

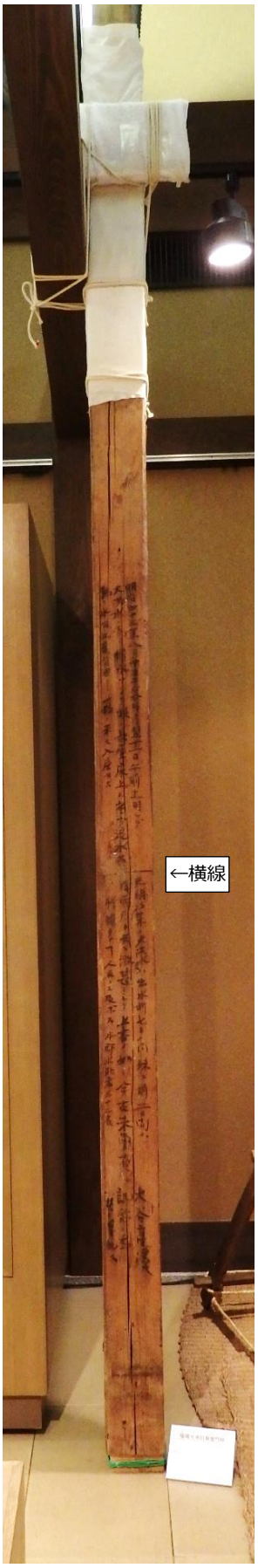
明治 43 年(1910)の大水害の様子を後世に伝えるため、当時の住職が墨書で記録を残しました。床上まで浸水したなどの記述があります。横線は大水害時の水位を示すという言い伝えもあります。

(早坂廣人)

明治四十三年八月十日午後拾時ヨリ翌十一日午前十一時マデ
大洪水ノ為メ増水アリテ此ノ長屋床上ニ若少浸水ス
為ニ水田収穫皆無ニテ一粒ノ米モ入屋セズ

大谷亮渓
記念ノ為
此ニ略記ス

天明以来ノ大洪水ハ出水前七日ノ間殊ニ前二日間ハ
降雨風ト共ニ激甚ニシテ上書ノ如ク今古未曽有
ノ惨憺タル事人名ニモ及ボス　本郡水死者三十二名



＊＊冬のイベント予定＊＊

入館者 100 万人を超えました！

11 月 4 日、資料館の入館者が通算 100 万人を超えました。今後ともよろしくお願いいたします。

●春季企画展「平成史 in 富士見」

30 年前、市役所のまわりは、はらっぱだった。

富士見市の平成を写真などでたどります。

会期／3 月 9 日（土）～6 月 9 日(日)
会場／特別展示室

●子ども書初め練習会

とき／12 月 23 日（祝）
①午前 9 時半～10 時半　②午前 11 時～正午
会場／講座室
対象・定員／市内小中学生・各 15 人（申込順）
持ち物／書道セット、書初め用紙、お手本、新聞紙
申込み／12 月 1 日(土)午前 9 時から電話で
協力／硯友(けんゆう)会

●餅つき実演と餅の販売

とき／12 月 23 日（祝）　午前 11 時～売切れまで
価格／1 パック 200 円　**会場**／旧金子家住宅
主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

とき／12 月 27 日（木）　午後 1 時～3 時
会場／旧金子家住宅
対象・定員／市内在住･在勤の方 15 人（申込順）
参加費／1200 円（材料代）
持ち物／はさみ　**指導**／吉川節男(きっかわせつお)氏
申込み／12 月 1 日(土)午前 9 時から電話

●正月飾り材料の予約販売

受付／12 月 1 日(土)～12 月 16 日（日）に電話で
※締切り後のキャンセルはご遠慮ください
引渡し／12 月 27 日（木）午後 1 時～3 時
資料館ホールで
費用／1 組 1000 円（わら付きは 1100 円）
主催／難波田城公園活用推進協議会

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解読しながら、当時の歴史や文化を学びます（全 3 回)。
とき／1 月 13 日(日)･1 月 27 日(日)･2 月 10 日(日)
の午後 1 時～3 時
会場／講座室　**講師**／山野健一（当館職員）
定員／20 人　**参加費**／無料　**申込み**／随時

●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌（2kg 分）を持ち帰ります。
とき／2 月 23 日（土）　午後 1 時～3 時
会場／旧金子家住宅　**参加費**／1500 円（材料代）
対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族または友人
定員／15 組（申込順。応募多数の場合初参加優先）
持ち物／エプロン、三角巾、容量 10ℓの容器など
申込み／2 月 2 日(土)午前 9 時から電話で

ちょっ蔵市（難波田城公園活用推進協議会主催）

12月23日(祝)もちつき
1月27日(日)マユ玉だんご
2 月　お休み

田舎まんじゅう販売
第 1、3 日曜日 10:30～
お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)
12 月 11 日（火)、2 月 19 日（火)
11:30～13:30　＊1 月はお休み

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は 12 月 29 日(土)から 1 月 3 日(木)まで休館です。公園は無休で、午前 9 時から午後 5 時まで開園しています。

難波田城(なんばたじょう) FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM
富士見市立難波田城資料館　TEL. 049-253-4664　Fax. 049-253-4665
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1
http://www.city.fujimi.saitama.jp/30shisetsu/11nanbadajyo/index.html
◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始　開館時間／午前 9 時～午後 5 時
◇公園休園日／なし　開園時間／午前 9 時～午後 6 時（4 月～9 月）　午前 9 時～午後 5 時（10 月～3 月）
資料館公式サイト